

## 令和2年度 秋桜高等学校 学校評価

### I 中期的目標

<p>1 生徒一人ひとりとしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する。</p> <p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p> <p>2 基本的生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。</p> <p>(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。</p> <p>(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。</p> <p>(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。</p> <p>(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。</p> <p>(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。</p> <p>(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。</p> <p>3 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。</p> <p>(1) 生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。</p> <p>(2) 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。</p> <p>(3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。</p>
---

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和3年4月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 別紙「生徒に対するアンケート」参照。</p> <p>○保護者 別紙「保護者に対するアンケート」参照。</p> <p>○教職員 別紙「本校教職員に対するアンケート」参照。</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や各種行事等を含む日常の生徒との交流・指導および保護者との懇談等をもとに、教職員は目標を理解しつつ活動している。</li> <li>・定期的、臨時的な会議および日常的な意見交換の場において確認された教職員の認識によれば、重点目標について各教職員の理解と協力が得られたと思われる。</li> <li>・前年度に引き続き上記のような取り組みを実行し、その結果は当年度においても全般的に目標に沿った効果を見ることができたと考えられる。</li> <li>・前年度の課題となっていた「特別活動」に関しては、コロナの収束状況が予想できないため、従来実施していた特別活動を行えるのかどうかの判断のタイミングが難しかった。5月に実施していたハイキング、9月のキャンプ、1月のスノーボード研修は実施を見送ることになった。ハイキングとキャンプについては、「新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業の要請」により、年度始めが2ヶ月遅れになったため、年間行事予定の改定案を作る時点(5月中旬)で実施をあきらめた。代替の行事についても、日程的余裕がなく作り出すことはできなかった。スノーボード研修については、直前まで実施するかどうか何度も会議を重ねたが、最終的には実施しないことになり、参加予定者に対し代替の特別活動(大教室を使つてのゲーム大会)を考え実施した。「映画鑑賞」「漢字検定」「英語検定」「大掃除」などの外出を伴わない特別活動に加えて、10月～11月に実施していた「芋ほり&amp;みかん狩りハイキング」と12月の「アイススケート」は予定通り実施できた。しかしながら、修学旅行のような位置づけの「キャンプ」「スノーボード研修」と、年度初めの友達をつくる機会にもなるハイキングが実施できなかったことは残念であった。次年度もコロナ禍での学校生活が予想できるので、従来どおりに実施できなくなるものについては、できる限り代替の活動を考えられるようであればと考える。</li> </ul>	<p>学校評価委員会実施日：令和3年5月12日～6月4日(構成委員6名) ※新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態措置により、意見書と電話会議等で実施。</p> <p>1 自己評価の結果内容が適切かどうか 適切である(6)人・適切でない(0)人・わからない(0)人</p> <p>2 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 適切である(6)人・適切でない(0)人・わからない(0)人</p> <p>3 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか 適切である(6)人・適切でない(0)人・わからない(0)人</p> <p>4 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか 適切である(6)人・適切でない(0)人・わからない(0)人</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で生徒の感染管理は大変であるが、行事などはできれば行って欲しい。</li> <li>・コロナ禍では、全日制と違い通信制であることの強みがある。一方で、今までと同様に限られた時間ではあるが、関わりを大切にしたい。</li> <li>・コロナ禍の課題として、生徒間の交流や新しい生活様式についてあげられるが今後どのように対応していくか考えなければならぬ。</li> </ul>

2 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 生徒一人ひとりしっかりと話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する</p>	<p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p>	<p>・継続課題として前年度より「学校づくり、学習・教科指導の充実についての保護者の認識」については、引き続き取り組む。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）① 「本校の教育理念および方針に基づいて校務に取り組んでいる」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）② 「時間割や開講科目等、教育カリキュラムを工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）④ 「生徒が興味を持って参加できる授業になるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）⑤ 「生徒の意欲を引き出す取り組みやすいレポートとなるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・学校評価（生徒）① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が92.7%（前年度実績91.3%）。</li> <li>・学校評価（生徒）③ 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が93.4%（前年度実績90.6%）。</li> <li>・学校評価（生徒）④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が90.6%（前年度実績92.8%）。</li> <li>・学校評価（保護者）② 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が80.6%（前年度実績84.7%）。</li> <li>・学校評価（保護者）③ 「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すよう工夫されている」の肯定的評価が83.3%（前年度実績86.8%）。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）③ 「生徒の状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・学校評価（生徒）② 「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が94.1%（前年度実績94.9%）。</li> <li>・学校評価（保護者）① 「教員は、生徒一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が89.9%（前年度実績91.0%）。</li> </ul>	<p>前年度のアンケート結果と比較して、どの項目も大きな数値の変動はなく、今年度も概ね肯定的評価をいただいていると判断でき、学校運営、教育活動に対し理解を得ていると評価する。</p> <p>学校評価（生徒）④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が2.2%減少しているが、「よく感じる」の数値は2.0%増加しているため、引き続きレポートの内容について教科担当間でよく吟味し工夫を重ねていきたい。</p> <p>学校評価（保護者）② 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」、③「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すように工夫されている」の項目について、肯定的評価が②では4.1%、③では3.5%減少している。しかし、「あまり感じない」「まったく感じない」の否定的評価が2項目とも0%になっており、「よくわからない」と回答した保護者が増えている。これについてはコロナ禍で登校機会が少なくなったことや、在校時間が短くなったことで、教師と生徒と一緒にレポートに取り組んだり勉強したりするような時間が少なくなったため、家庭で生徒が授業やレポートについて話す機会も少なくなったのではないかと考えられる。</p>

(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。

(2) 基本的な生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。

(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。

(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。

(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。

(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。

(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。

- ・継続課題として前年度より「宿泊研修等の特別活動への有意義な参加についての生徒の認識」については、引き続き取り組む。
- ・特別活動については、活動内容の企画・立案や生徒参加の留意点等について、慣例的・固定的なものにこだわることなく、充実したものとなるよう努める。
- ・何よりも「楽しい学校」であるべく工夫し、各生徒が自らも他からも肯定されることから始めることによって、自信と将来への希望を育むことに心がける。
- ・教育方針や生徒指導等に関しては、懇談の機会を重視しながら、教育内容に関する各種通信文書、「いじめ防止基本方針」のHP掲載等を活用しつつ保護者への周知を進める。

(1)

- ・自己評価(教職員)⑥  
「生徒が楽しくいきいきと参加できる学校行事となるよう考えている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑤  
「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が87.6%(前年度実績87.7%)。
- ・学校評価(保護者)④  
「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価が88.0%(前年度実績87.4%)。

(2)

- ・自己評価(教職員)⑦  
「どの学校行事にも生徒が参加しやすいよう丁寧に働きかけている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(3)

- ・自己評価(教職員)⑧  
「生徒の基本的な生活習慣の確立につながるよう学校生活や行事の中で支援している」の肯定的評価が100%(前年度実績94.7%)。

(4)

- ・自己評価(教職員)⑨  
「生徒同士がつながり、学校生活が心地よく過ごせるよう環境づくりを工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(5)

- ・自己評価(教職員)⑩  
「校舎や教室の美化に努めている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑥  
「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が95.6%(前年度実績96.4%)。
- ・学校評価(生徒)⑦  
「清掃が行き届いている」の肯定的評価が91.2%(前年度実績91.4%)。
- ・学校評価(保護者)⑤  
「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が95.9%(前年度実績97.9%)。
- ・学校評価(保護者)⑥  
「清掃が行き届いている」の肯定的評価が91.3%(前年度実績92.4%)。

(6)

- ・自己評価(教職員)⑪  
「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に進路相談や懇談を行っている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑧  
「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が91.9%(前年度実績89.2%)。
- ・学校評価(保護者)⑦  
「懇談や進路相談などが丁寧におこなわれている」の肯定的評価が98.0%(前年度実績97.2%)。

(7)

- ・自己評価(教職員)⑫  
「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に情報を発信している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑨  
「教職員は、郵送や電話などを通して丁寧に連絡をしている」の肯定的評価が94.9%(前年度実績97.8%)。
- ・学校評価(保護者)⑧  
「学習計画が立てられるよう、郵送や電話での連絡が丁寧におこなわれている」の肯定的評価が98.0%(前年度実績97.2%)。

学校評価(生徒)⑥、学校評価(保護者)⑤の「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価がそれぞれ0.8%、2.0%と減少していることについては、やはりコロナ禍の中で、学校内にとどまらず、感染不安を感じている生徒・保護者が多いと感じた。学校として取れる対策だけでは不安を取り除くことはできないと思うので、ワクチン接種や様々な政策を含めて感染予防を進めていくことができればと考えている。

学校評価(生徒)⑧  
「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」、学校評価(保護者)⑦「懇談や進路相談などが丁寧におこなわれている」の肯定的評価が前年度より増加しているのは、「進路は3年生」という概念を取り払い全教員で進路指導に取り組んできてきた結果だろう。特にアンケート対象である1、2年生の生徒の「よく感じる」の数値が74.7%から81.0%に増加しているのは、まさしく取り組みの成果であると考えられる。よって次年度についても引き続き取り組みを進めていけたらと思う。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 教職員間の情報交換がしっかりとできるように工夫し、生徒一人ひとりを大切にされた教育に全教職員で取り組む。</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりを大切にされた教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。</p> <p>(2) 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。</p> <p>(3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続課題として前年度より「各教職員間の情報伝達」については、引き続き取り組む。</li> <li>・各教職員間においては、適切な個人情報の保護に配慮しつつ、できるだけ開放的な情報環境の構築に努め、各種行事の内容・日程および校務運営全般の企画・調整、教育課程検討、生徒指導指針、人権教育をはじめとする各種研修、進路指導、カウンセリング、広報活動等の校務分掌各部の分担業務について、教職員間での連携・協力を奨励する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）⑬ 「生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が96.3%（前年度実績97.8%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑪ 「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が93.4%（前年度実績95.0%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑫ 「この学校に入学してよかったと思う」の肯定的評価が94.2%（前年度実績94.2%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑨ 「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が98.7%（前年度実績98.6%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑩ 「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が98.7%（前年度実績99.3%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑪ 「校風・雰囲気が良い」の肯定的評価が95.3%（前年度実績97.2%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑫ 「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価が95.3%（前年度実績97.9%）。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）⑭ 「学校生活上で問題が起こった場合、その都度全員で話し合い、対応している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）⑮ 「生徒についての情報を丁寧に交流し、各個人に応じた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）⑯ 「職員会議やその他の会議等は、誰もが発言できる機会となっている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）⑰ 「教職員の資質向上につながるような研修の機会を設けている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> </ul>	<p>学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が1.5%減少しているが、「よく感じる」と応えた生徒は85.5%から89.0%と3.5%増加している。これはコロナ禍で学校が休校期間となった4月、5月の2カ月間にも電話やビデオ通話等で、どの生徒とも連絡を取り続けていたこと、手紙や通信等を例年よりも丁寧に送り続けたことで生徒が教員側の姿勢を感じ取ってくれたのではないかと考えられる。休校期間があったからこそ時間的な余裕が生まれ、取り組めたことあれば、日程的な余裕が奪われ取り組めなかったことの両方がある一年となった。よって、コロナ禍が収束してから活かせる取り組みを吟味する必要があると考える。しかしながら、多くの項目の肯定的評価が著しく減少するような結果にはなっていないので、コロナ禍であってもその都度何ができるか教職員全員で議論し取り組んできたことがよかったと思われる。</p> <p>次年度も引き続きコロナの状況がどのような場合であっても、その姿勢で臨めたらと考える。</p>
---	--	---	---	--